

永久保存版

# Mild Vind<sup>ミルヴィン</sup>

2026.5

Nr.5

やさしい風を届ける T E N A ニュースレター



明日につながるやさしさ



TENAを導入いただいている施設様

vol.6

社会福祉法人光寿会  
介護老人保健施設  
ケアステーションひかり様

## ケアを育てた先に、コスト最適化があった 人材育成と組織活性を生んだ排泄ケア改革

DATA

住所：北海道広尾郡大樹町字大樹 10 番地 8  
URL：<https://www.koujyukai.info/facility/hikari/>  
定員数：100名（うち認知症専門棟30名）

北海道の地でご利用者スタッフの温かな笑顔が印象的なケアステーションひかり様。4年前にTENAを導入し、理想のケアの実現と経営効果の向上を両立した取り組みをご紹介します。

### 『排泄』の共通化を目指し TENAを導入

TENAを導入したきっかけ

ケアステーションひかり様（以下…ひかり様）がTENAを導入されたのは4年前、きっかけはあるスタッフとTENAアドバイザー佐々木亮介との出会いでした。「以前からTENAは良い製品と思っていましたが、光寿会のケアで取り入れ

ている学習療法について、熊本のご施設を視察した際、TENAを導入されていて、スタッフ、ご利用者ともに笑顔だったのを拝見し、『TENAはやはりいいな』と思ったのです。そんな時、他施設で使用経験のあるスタッフが転職し、この人がいけば排泄ケアに全職種で取り組むことができると思い、また、アドバイザーの佐々木さんとの出会いがあり、導入を決断しました。老健や特養など施設の種類の違っても、ケアの根底である『排泄』



ケアステーションひかり様では、ご利用者に農作業や調理も楽しんでもらっています

の部分は法人内で共通化し、職員が連携できれば、ご利用者の満足度向上にもつながると考えました」（森須賀子常務理事）

### 全員が初心者でスタート

もう一つのきっかけは、ちょうど導入のタイミングでインドネシアから2人の外国人材を受け入れたことでした。「このタイミングであれば、すべてのスタッフがTENA初心者。対等な関係で高めあう、現場の雰囲気づくりも可能になるとも期待しました」

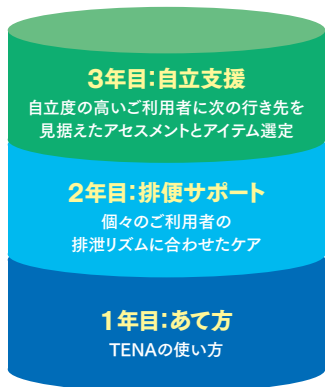
もともとひかり様は、職種に関係なく誰もが意見を言いやすいフラットな職場の風土を作っておられました。それも相まって、インドネシア人のスタッフも、「共に学び、高めあう仲間」として職場に溶け込んでいくことができたといえます。

### アドバイザーの問いで変わった意識

とはいえ、現場には「現状に不満はない」といった声もありました。そんな中、TENAアドバイザー佐々木から投げかけられたのが「TENAを使つてどのような施設を作りたいですか」という問いかけでした。

「現場では、日々目の前で起きている課題やトラブルへの対応に追われがちです。それなのに、本質を問われて驚きました。確かに課題解決型では、トラブルや困難に遭遇した時に目の前で起きていることへの対応にだけ囚われがちです。しかし、最初にゴールを明確にすれば、『どうすれば目的を実現できるか』という視点での課題対応が可能になります。何度も会議を重ねるうちにこの考え方が浸透したことで、スタッフの成長にもつながり、課題自体が『意味のある経験』として共有されるようになりました」

## ケアステーションひかり様 スキルアッププロセス



1年ずつしっかり学ぶプログラムでスタッフ全体の確実なスキルアップを実現されました

**次の生活の場を見据えたケアを実現**  
ステップを踏んでいったこと  
でご利用者の満足度も次第に

高まっていったといいます。漏れによる衣服汚染が激減し、不要なパッドの交換による安眠中断も防げるようになるにつれて、ご利用者の満足度も高まってきました。「現在では、トイレに行くことはすべての人の権利という考え方がスタッフに共有され、1日の生活リズムに合わせながら、退所後の生活の場所も見据えた排泄ケアプランを組む『24時間の生活デザイン』もできるようになりました。また技術をしっかりと身につけたことで、皆がどうすればもっと良くなるかを、自信を持って考えながら、楽しんで仕事を

する雰囲気も導入前より一層高まりました。ご利用者からも『家よりも過ごしやすいね』との声もいただけるようになった

「世界一のケアを実現する」という目標を全スタッフが共有して行動する方針は、現場に新たな視点をもたらしました。佐々木が導入前後は毎週のように現場に入らせていただいたことも、スタッフの意欲向上や着実な前進につながったと野村さんはいいます。

### 「やらないことを決める」 段階的な技術習得

TENAがどれだけ良い製品でも、パッドのあて方が悪ければ漏れや衣服汚染は発生し、結果、使用量も増えてしまいます。そこで取り入れたのは、「やらないことを決める」という方針でした。

「同時にいくつもの課題を解決しよう」とすると現場が混乱することは目に見えていました。そこで、1年ごとに一つのテーマを決めて徹底的に学んでいこうと考えたのです（左表参照…ケアステーションひかり様のスキルアッププロセス）。全員で足並みを揃えて一歩ずつケアの質を均一に、かつ、着実に向上させることが大切だと考えました」（後藤慧介護係長）

目はおむつにかかるコストが上昇し、不安もあつたと後藤さんはいいます。しかし、「正しい製品知識と技術習得にかかる初期コストは投資。他の部分でバランスを取るから大丈夫」という森常務の言葉が励みとなり、着実にケアの質向上を実現した結果、3年目には施設全体で導入初年度と比べて約2割のコスト削減も実現できました。

高まっていったといいます。漏れによる衣服汚染が激減し、不要なパッドの交換による安眠中断も防げるようになるにつれて、ご利用者の満足度も高まってきました。「現在では、トイレに行くことはすべての人の権利という考え方がスタッフに共有され、1日の生活リズムに合わせながら、退所後の生活の場所も見据えた排泄ケアプランを組む『24時間の生活デザイン』もできるようになりました。また技術をしっかりと身につけたことで、皆がどうすればもっと良くなるかを、自信を持って考えながら、楽しんで仕事を

する雰囲気も導入前より一層高まりました。ご利用者からも『家よりも過ごしやすいね』との声もいただけるようになった



外国人スタッフと日本人スタッフ、アドバイザーも加わって新しいご利用者のアセスメントの検討をしている

り、スタッフも大いに励みになっていきます」（後藤慧介護係長）

### 余裕が出たことで観察力が向上

TENA製品の肌へのやさしさもご利用者の生活の質の改善に役立っているといえます。「TENAは、尿の吸収後も肌に触れる面がサラサラなので、不快さを感じにくいのが特徴です。それにより、以前は18時から0時の間で2回行っていた交換が1回になったり、交換せずに朝を迎えられたケースも見られるようになりました。そうなる私たちが日中ゆとりを持ってお話ししたり、爪を切ったりと、ご利用者と向き合える時間が増えました。こうしたことの積み重ねにより、TENA導入前よりもご利用者の笑顔を目にする機会が増えたと感じます」（野村常夫エリア部長・理事）

### データを活用して 効率的な運用を実現

#### データに基づいたケアを実践

ケア技術の向上とともに力を入れていくのが、データに基づくおむつ使用量の管理です。そのツールとして活用いただいているのが、TENAがご提供している「TENAケアパターンシミュレーター」（P5参照、以下シミュレーター）です。新規のご利用者が入所される際にアセスメントを行うのは当然ながら、日々の生活の状態を観察してケアパターンの見直しを実施。その結果を都度、「シミュレーター」に反映させながら、一人ひとりのおむつ使用量を予測しています。さらに予測データと実績データを比較しながら、予測と実際に差があればこまめに原因を検証し、改善することで効果的な管

理を実現しています。

「交換タイミンクなどを検討する際には、TENNA製品についているインジケータも活用しています。以前は、大まかに『このくらいで変えた方がいいだろう』という経験に頼っていたのですが、今はインジケータの色の変化を見ながら、排尿のタイミンクや量を計測し、交換タイミンクや吸収ランクの変更を検討しています。これにより、TENNAコンフォートスパーのご利用者で、少しずつ便が出て都度替える方はエクストラやプラスに吸収ランクを下げたり、点滴治療が始まって一時的に尿量が上がった方はランクを上げたり、終わったら元に戻すなど、こまめな変更と調整をデータに基づいてできるようにになりました」（後藤慧介 係長）

## TENNAを使うことで スタッフの主体性も後押し

### アメーバ経営を取り入れこまめに調整

ひかり様では、部署ごとで判断する経営方式を取り入れることで、現場レベルの実情に合わせて主体的に判断できるようにしています。

「現場に判断権限をゆだねるアメーバ方式は以前から導入していたのですが、TENNA導入後はこれまで以上に各部署の主体性が高まり、自信を持って判断できるようになったことも大きな成果でした。各部署で毎月集中的に取り組み課題を決め、その結果を都度評価してからのステップに進むようにしているのですが、現場から『改善のためにこういうデータがほしい』という要望が上がるまでになってきています」（森須賀子 常務理事）

### 適正なアイテム選定による効果

こうした取り組みの結果、吸収量の多いTENNAコンフォートマキシンの利用率は、同法人内でTENNAを使用する他の施設と比較しても、ひかり様が最も低くなっています。尿や便で衣服が汚れてしまったりパッドを大きくする——現場で直感的に行われていたそうした慣習は、この数年で大きく変わりました。TENNAのアイテムが良質だからこそ、個々のご利用者に合った使い方を考えると後藤さんはいいます。

「最初の頃はマキシンを大量に使っていました。しかし『マキシで一晩にこだけわり過ぎると汚染が増えてしまいました。ならば吸収ランクを下げると二回に分けるなど、ご利用者ごとに見直したことで改善しました。そうした判断が合理的にできるようになったのも、しっかりとデータ管理ができていたからだと考えています」

データを重視したアセスメントは、日々のケアで関わる介護職だけでなく、リハビリスタッフや看護職など多職種連携の取り組みにもなっています。ひかり様では、リハビリスタッフなどにもTENNAマイスターの認定取得を推奨しており、おむつや排泄に関する理解を高いレベルで共有。それぞれの専門分野とリンクさせることで、ご利用者の状態への見方がより深くなっているといえます。

### 変化に揺らがない、組織運営の力に

こうした取り組みは、組織力の強化にもつながっています。

「排泄ケアが整ったことで、現場では一定の業務負担が軽減され、ご利用者の小さな変化に気がつける場面が増え

## 製品がとれただけ良くても 基礎がなければ無駄になる

1年で一つのテーマに絞ったことで、誰でも同じケアができるようになったと感じています。ご利用者の笑顔も増えましたし、職種を越えてスタッフ同士の会話が増えたのも嬉しい変化でした。

ただ一方で課題も見えてきました。理解し、できるようになっても、慣れると作業化するのは人の常です。ひと手間を省いてしまう場合もありますが、問題につながりませんが、少なくともありません。

私たちが行うのは、ご利用者の日常を支えるケア。楽をするのは悪いことではありませんが、その先にある「相手はどう感じるか」「どんな影響が

あるか」を考えることが欠かせません。だからこそ、全員で定期的に基礎を振り返り、作業とケアの違いを問いかけていきたい。これからもご利用者との関わり方を皆で考え続けていきたいです。



介護係長 後藤慧さん

てきました。一方で、職員自身は生まれた空き時間を見守りや歩行訓練など、本来提供しなかったケアに充てており、毎日やることは尽きません。そのため『ゆとり』を実感していないかもしれせん。しかし、管理者側から見ると、一時的な業務集中や急な離職などの体制変動にも耐えられる組織の強さが培われてきたと実感しています。業務が安定したことで、新しい取り組みに前向きに挑戦できる風土も生まれつつあります」（野村常夫 エリア部長・理事）

## 世界一の介護を実現し 魅力ある介護の発信へ

### 排泄ケアで得た視点を、暮らし全体へ

TENNA導入を通じて積み重ねてき

た排泄ケアの考え方と進め方は、いまや施設全体の『共通言語』となりました。「TENNAを導入して4年、みんなが丁寧積み重ねてきたケアは、排泄だけでなく『その人の1日』を見立てる視点につながってきていると感じています。せっかくながら根づいたこの考え方を、歩行や水分、睡眠など生活全般にも広げて、ご利用者の暮らしそのものを良くしていきたい——そう思っています」と野村部長は語ります。

また森常務は、「介護を最高に楽しい仕事にしたい」とおっしゃいます。「介護職は、工夫や試行錯誤を繰り返す中に醍醐味があります。職員が生き生きと働ける『介護って楽しいよね』と言える職場づくりを続けていきたい。『世界一の介護』を実践する現場から、介護の魅力を発信していきたいと考えています」

PICK UP

ケアとコストのバランスを「見える化」する

TENAケアパターンシミュレーター

ご利用者の状態に応じてTENA製品の交換パターンを設定することで、想定される使用枚数、金額、発注サイクルごとの必要発注数を試算できるオリジナルツールです。次のポイントを明確に把握できます。

パターンごとに、交換回数や1日あたりの総吸収量目安、また施設全体のコストも試算でき、ケアに対するコストにも意識を向けられます

ご利用者の状態に合わせた交換パターンを設定し、交換回数や1日あたりのパッドコストなどシミュレーションします

どれくらいの期間でどの商品がいくつ程必要になるのかを試算し、在庫数の管理を合わせて見えるようにします。こちらの情報を、弊社注文書へ転記します ※一部対応していない製品があります

※記載の単価・数量はダミーです。

- ・ 1 予測と実際を設定し、考えるケアの基盤づくりに
- ・ お一人あたりの交換回数・金額/日
- ・ 月間パッドコストの目標額設定
- ・ 業務ルーティン設計
- ・ 適切なケア実現に向けた改善ポイントの発見
- ・ 2 実際のパッド購入量・金額実績と比較することで、次のポイントを確認
- ・ 想定したケアが実現できているか
- ・ 適切なケアの実現に向けてどこに課題があるのか
- ・ どの部分を改善すると良いか

ケアステーションひかり様では、お一人ずつ交換パターンを設定し、トイレ誘導の成功や状態変化に応じて細やかに設定を見直しながら運用されています。実際の購入実績と比較し、ケアとコストの予実管理を丁寧に実施。ギャップがあれば、要因を分析し、改善につなげていきます。トイレ排泄できる方が増えると、ご利用者のQOL向上とともにコストが下がるという効果もツール活用により一目で分かります。左記の図をご覧いただき参考にしてください。



TENA アドバイザーインタビュー

主役はお客さまであり、自己決定をサポートする

ユニ・チャームメンリック株式会社 北日本営業部  
ディストリクトマネジャー・TENAアドバイザー  
佐々木 亮介さん

アドバイザーは取り組みを引っ張るのではなく「ご施設自身が考えて決定し、実行し、評価する」そのプロセスを支える存在。だから、情報や選択肢を共有しながら、ご施設が「これだ」と確信した時、決断をしっかり支える。そんな関わりを心がけています。成功も試行錯誤も含めて現場の経験として積み重ねることで、現場の力として根づいていきます。

そのため、会議などの机上だけでなく、現場の皆さんから“一員”として受け止めてもらえる関係づくりをモットーにしています。職員の名前を覚え、ともに行動し、ともに整理しながら「一緒に考える存在」になる。すべての判断基準に「その人の尊厳にとってどうか」を据え、対等なパートナーとして同じ方向を向き、課題解決に向かっています。

左からアドバイザーの佐々木亮介さんと小幡歩美さん、森須賀子常務理事、野村常夫エリア部長・理事、後藤慧介課係長

# 世界の風

Nr.4

“その人らしい毎日”を  
支えるケア  
スウェーデンの  
失禁ケアに学ぶ  
Dignity (尊厳) のあり方

北欧・スウェーデンでは、失禁は「加齢の一部」ではなく「治療・ケアすべき疾患」。たとえ治療で完全に回復しなくとも、支え続ける仕組みがあります。自治体により制度の詳細は異なりますが、今回は、ストックホルム県ソルナ市で処方ナースとして勤務するガリーナさんにお話を聞きました。「その人がその人らしく生きること」を大切にする福祉の哲学が現場でどのように息づいているのかをひもときます。

v ä r l d e n s  
v i n d a r

## 丁寧な「聴く」ことから始まるケア

失禁を「治す」のではなく「整える」。スウェーデンでは、失禁は疾患としてとらえ、治療によって完全に回復しない場合でも、その人の生活の質を保つための医療的サポートの一環として、パッド（おむつ）が処方されています。「多くの方は、自分でも『おむつを処方してほしい』と考えて処方ナースのもとに来るのではありません。ホームヘルパーや家族から連絡を受けてから、私たちが介入を始めることが多いのです」とガリーナさんはいいます。

初回面談はおおよそ20〜40分。生活の様子、飲水量、排尿の回数、吸収量などを細かくヒアリングし、必要があれば24時間にわたり尿量測定を実施します。

得られたデータをもとに、失禁の程度や生活スタイルを評価し、数ある補助具の中から、ご本人の希望と合わせて最適な製品を選定します。「何を、なぜ使うのか」を説明し、納得をした上で処方がされます。「重要なのは、その方が自分のケアに主体的に関わること。ストレスや病気で気持ちが沈んでいる時は処方を急がず、会話ができる安定したタイミングを選ぶことも大切です」

## 適切なものを必要な人という責任

スウェーデンでは、処方ナースがむやみに多くのおむつを出すことはありません。

「処方費は税金で賄われる医療行為」だからこそ、本当に必要な人に、正しい量と製品を届ける責任があります。1日に交換する回数が多すぎる場合は、製品が合っていない証拠。すぐに見直します。

在宅で暮らす認知症の高齢者など、長期使用者に対しては、ホームヘルパーや訪問看護師、地区ナースが連携し、状態変化に気づいた時点で連絡・調整を行います。

「一人を多職種で見守る仕組み」が整っているからこそ、誰も取り残されません。オンライン面談による処方や郵送対応も進んでおり、医療センターに来ることができない方でも安心して支援が受けられます。

## その方らしい暮らしを社会全体で支えるケア

日本では、失禁＝恥ずかしいという印象が根深くあります。しかしスウェーデンでは、「誰にでも起こりうる身体の変化」として、オープンに語られ、医療制度の中でしっかりと支えられています。

「私たちの目的は、漏れを防ぐ」ことではなく、その人が安



「ケアの始まりは聴くことから」と語る処方ナースのカリーナさん(中央)。笑顔の奥に、ご利用者一人ひとりへの深いまなざしが宿る



ソルナ・セントルム医療センターはショッピングセンターの一角にあります

心して社会とつながり続けること。おむつはそのための道具です」

カリーナさんの考え方の根底には、北欧福祉国家に共通する「人の尊厳を守る」という理念があります。機能やコストの効率を追うのではなく、「その人らしい生活」を実現するための選択が、制度として確立しているのです。

### TENAが選ばれる理由

数あるブランドの中で、カリーナさんがTENAを積極的に薦める理由は、幅広いラインナップであらゆるニーズに対応できるからでした。「吸収力が高く、においも気になら

ない。何より身体にやさしくフィットするので、ご利用者の快適さが違います。多くのヘルスケア専門職もTENAを信頼しています」

TENAの製品群は、ご利用者の身体状況に合わせたサイズ・吸収量が細かく設定され、介護現場での作業効率も考慮されています。また何よりも、はいていることが気にならず、外から見て目立たないなどご利用者の尊厳に配慮しています。TENAは単なる「製品」ではなく、ケアを担う人たちの想いにご利用者の暮らしに寄り添う「パートナー」として存在しているのです。

### スウェーデンの「ささえ合う」思想に学ぶ

スウェーデンのケアは、制度だけでなく、社会全体に根ざした相互扶助の精神に支えられています。

「一人で頑張らなくていい」「必要な時に支えを求めている」——そんな考え方が、ごく自然に生活の中にあります。

「失禁があるからといって、その人の人生の質が下がるわけではありません。適切な支援があれば、人はいつまでも自分らしく暮らせる。それを信じて、日々ケアを続けています」と最後にカリーナさんは語ってく

れました。

自分に合った失禁ケア用品を使い、行きたいところに行くという「ふつうの暮らしの継続」のために——パッドは安心して社会とつながるための失禁補助器具です。

日本では、パッドの処方制度はありませんが、TENAをお使いの施設・病院では、専門職の皆さまがご利用者をアセスメントし、その方にとって最適なパッド選定とケアパターンを設定しています。あくまでもパッドはトイレに行く補助器具として、可能な方はトイレ排泄を追求されています。

これは【日本におけるケア処方】と呼んでよいのではないのでしょうか。

ケアに携わる方々が一人ひとりのご利用者を思い、個々に応じた質の高いケアを提供する【日本らしいケア処方】の充実に向け、これからも皆さまとともに取り組んでいきたいと考えています。



好きな場所へ出かける日常が、ちゃんと続いていく

いつでもどうぞ

たかいひろこ



## 製品のご紹介

# TENA フレックス

トイレに行くことを前提に、軽快な着用感を目指してデザインされたTENAフレックスがさらに進化しました!



## ■ 5つの特長

- POINT 1 つけていることが気になりにくい
- POINT 2 あてやすいベルトタイプ
- POINT 3 モレの防止力と快適性を同時に実現
- POINT 4 サラサラとしたつけ心地で快適に
- POINT 5 全面通気性で肌にやさしいパッド

リニューアルのポイントは、ベルトのコンフィストレッチ™の幅が3.5cmから5cmになったこと。Sサイズで小さい、Mサイズでは大きいという声から伸縮性を高め、様々な体型にフィットするように調整しました。ベルトも柔らかな設計のため、最小限の力であてることができ、ぴったりフィットします。排尿後の重さが加わってもズレる心配はありません。

着脱が簡単で動きやすい、身体にフィットしたパッドを選ぶことは、もう一度トイレに座る、そのための第一歩です。

TENAアドバイザーは、快適なトイレ排泄習慣を実現するために、お一人おひとりのケア処方をお手伝いいたします。ぜひお気軽にお声がけください。



## 編集後記

今回、日本のTENAご導入施設であるケアステーションひかり様の取材と、スウェーデンの処方制度や高齢者・障がい者住宅の視察をとおして、国も制度も文化も異なる二つの場所に共通する、大切な視点に気づかされました。それは「その人らしい暮らしを支える」という揺るぎない想いです。

スウェーデンでは、処方ナースが生活状況から排尿パターンまで丁寧に把握したうえで、最適な「医療用補助器具」としてパッドを処方していました。制度として整備されているのは、実際に利用するご本人が納得し、自分のケアに主体的に関わることを尊重するためです。

日本にはスウェーデンのような公的な処方制度はありません。しかし、ケアステーションひかり様でのお取り組みは多くのTENAユーザー様がそうであるように【日本版のケア処方】と呼ぶにふさわしい、人を中心としたOmsorg(オムソーリ)そのものです。介護・看護職がその方の生活のリズムや思いを丁寧に汲み取り、

根拠をもって判断し、評価し、必要に応じて変更していく。現場の専門性と観察力、そして目の前の人を想う気持ちが、確かなケアの仕組みとして機能しているのです。

パッドは単なる道具ではなく、その人が行きたい場所へ行き、会いたい人に会い、安心して日々を過ごすための補助器具。その役割は日本もスウェーデンも同じでした。

これからも、私たちは各国の知見に学びながら、日本らしいケアの形を皆さまとともに考え続けていきたいと思っています。

本誌でご紹介したケアステーションひかり様の歩みを、動画(二次元コード)でもご覧いただけます。TENA導入の一番の効果は「人の成長」と語ってくださいました。



Mild Vind  
2026.5 Nr.5

## Contents

P2: ケアステーションひかり様

P6: 世界の風 Nr.4

P8: 4コマ漫画

製品のご紹介

編集後記

Mild Vind(ミルヴィン)は、スウェーデン語で「やさしい風」の意味です。

バックナンバーはこちら

オンラインTENAアカデミー  
<https://tena-academy.jp>

